

○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 31 年 3 月 22 日

事業名	小平らしい生き物の調査事業
団体名	特定非営利活動法人 NPO birth
担当課名	環境政策課
事業期間	平成 30 年 4 月 20 日～平成 31 年 3 月 22 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

小平市内の自然を代表する場所として、雑木林2ヶ所、用水1ヶ所を選定し、生物調査を行った結果、植物を92科349種、動物を98科161種確認した。希少種が13種確認できるなど、小平市内の自然環境の現状を把握することができた。また、観察会や講演会では、調査結果をもとに生物多様性に関する普及啓発を行い、特に観察会は満員御礼となるなど、市民の関心を高めることができた。これらの結果を踏まえ、リーフレット「こだいらの生きものを探しにいこう!」を20,000部作成し、市内各施設にて配布を開始した。より多くの市民に対し、生物多様性への理解を深めることができた。

②団体の長所を、発揮させることが出来たか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

普段から武蔵野地域で活動していることと、専門技能を持つスタッフを有するという強みを活かし、小平市に生息する生きものの情報を的確に把握することができた。特に観察会においては、小平市で生まれ育ったパークレンジャーが解説を行い、幼少期の体験を語ったことで、参加した市民も受け入れやすく、理解度の向上につながった。また、これらをもとに、「小平らしい生きもの」を抽出することができ、自然に親しむ場へといざなうリーフレットを作成することができた。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

事業内の各プログラムを実施する前には、必ず打合せを行い、スケジュールや役割分担などを綿密に確認し合った。また、それ以外にも製作物や集客状況など、こまめに連絡を取り合いながら確認するようにしたため、支障なく事業を遂行することができた。終了後も振り返りの場を設けるなど、より質を向上させながら事業を進めたことで、団体と行政とが連携し、長所を活かしながら役割を果たし、自然情報収集と市民への働きかけは十分にできたと考える。

④改善提案がありますか。

自然環境は季節ごとに大きく変わり、出現する生物の種類も変わることから、調査回数は充分とは言えない。小平市内の自然情報を正確に把握するためには、今後追加調査が必要である。さらに科学的に解析し、保全に繋げていくためには、調査方法や調査対象もさらに検討する必要がある。また、観察会や講演会など普及啓発の場では、10代以下の若い層の参加が少ない。リーフレットの配布で幅を広げることは狙っているが、小学校と連携するなど具体的な方法を検討し、より幅広い層の参加につながるような訴求の仕方を工夫する必要がある。今後、雑木林や用水の質を高めていくためには、多様な主体との関係を構築し、連携を強化していくことで、市民参加を促すことが重要である。小平市全体で、自然環境保全への関心を高め、積極的かつ継続的に保全管理に携わる気運を醸成することが、これからの重要な課題である。

自由記載欄